汚染牧草の一時保管事例④ ~岩手県D町~ 軽量鉄骨造倉庫テントによる集中一時保管

①汚染牧草の保有状況

保有農家数保有量汚染濃度

60 戸 1,3

1,300 トン(推定)

平均 190Bq/kg 程度

②一時保管の概要

実施主体

・岩手県の補助事業を活用。D町が実施 主体。保管施設の設置工事等は地域の 農協に委託。搬入は農家が行う。

実施期間

·平成24年9月~ 全棟(14棟)設置完了(25年7月末)。

場所

·D町の町有地

実施方法

・約2.6haを造成し、軽量鉄骨造倉庫テント14棟(延べ床面積約400㎡)を設置しロール等を搬入する。

費用

·230百万円

③保管方法の検討

D町では、農家経営地内での一時保管を実施していたが、ラップの劣化や 25 年産牧草の置き場に苦慮。焼却に長期間掛かることを想定し、長期展張用テントでの一時保管を検討。

〈ポイント〉

①長期保管対策

流滴剤塗布型遮光フィルムを用いた長期展 張用テント(軽量鉄骨造)を設置。

②廃汁対策

ラップサイレージからの廃汁対策として、 2棟で土間コンクリート施工、それ以外で 遮水シートを敷設。

③住民理解の醸成

地域住民の合意を得るため、説明会を開催。



④作業手順(土間コンクリート施工)

①施工前

・保管場所として町有地を選定。



②造成

・建設機械による造成。



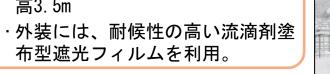
③コンクリート打設

・L型擁壁を利用した基礎工事。



④組み上げ

· 軽量鉄骨造: 巾9m×奥行45m×軒 高3.5m





- ・25年7月末に14棟全棟完成。
- ·一時保管場所までの運搬は生産者 が行う。



【参考】倉庫テントの床面 (廃汁対策)



土間コンクリート施工

高水分サイレージ等、 長期保管による廃汁流 出のリスクが高いロー ルを保管。緩傾斜をつけ 廃汁の横漏れ防止を図 る。(2棟)

遮水シート敷設

乾草や低水分サイレージ等、比較的廃汁流出のリスクが低いロールを保管。際部分に返しを施し、廃汁の横漏れ防止を図る。(12 棟)

<u>《取組スケジュール》</u>

24年8月21日 議会全員協議会に対する説明

8月22日 保管施設設置場所地域住民に対する説明会

8月31日 町議会で予算議決

9月6日~ 集中保管施設設置にかかる伐採・整地・施

設設置開始

12月3日~ 牧草搬入開始

25年7月末現在 保管ハウス全棟(14棟)全棟設置完了

⑤完成· 搬入